



▼竜野川のほとりを飛び交うゲンジボタルの光跡



この時期は児童らとホタルの観察会を行うが、今年は新型コロナウイルスの影響で中止に。金森さん（上早川三区）は「飛び交うホタルを子ども達と一緒に見れないのは残念。今年は難しいかもしれないが、地域の自然の豊かさを子ども達に伝える取り組みを続けていきたいです」と話しました。

## 豊かな自然を次の世代へ

学びの小川で飛び交う命の光

5月下旬、たつのホタル会が昨年の夏に龍野小児童らと協力してゲンジボタルの幼虫を放流した竜野川で、成虫に育ったホタルが盛んに飛び交い、地域住民を楽しませました。

たつのホタル会（金森徹会長）は、地域の子もたちにホタルの飼育を通して自然と生命の大切さを学んでもらうことなどを目的に、平成26年に結成。例年、授業の一環として、龍野小児童らとホタルの幼虫の飼育を行い、数ミ程度に育った幼虫を竜野川に放流する取り組みを行っています。

## アユ釣り愛好家集まる

6月1日アユ釣り解禁日

6月1日（月）県内河川でアユ釣りが解禁となり、緑川には早朝から多くのアユ釣り愛好家が訪れて、自慢の長竿を操りながらアユとの駆け引きを楽しみました。

アユ釣りのポイントとして知られる緑町の中甲橋グリーンパーク付近には、町内外から訪れた釣り人や愛好家などが集まり、アユの友釣りの釣果を競い合うなどしてシーズンの到来を楽しみました。

甲佐の夏の風物詩である緑川のアユ釣りの風景は、秋ごろまで楽しめます。



▲アユ漁解禁日から緑川で友釣りを楽しむ釣り人ら



▲梅の木の下で収穫した梅を仕分ける参加者ら

## 採れたての梅をお届け

宮内梅まつり

5月31日（日）上揚の坂本梅林で、宮内梅まつりが行われました。

宮内地区の伝統を継承するためNPO法人「自然楽舎みやうち」（境国嗣代表）が主催。例年、同地区の地域住民に町外からの参加者も加わるこの行事も、今年は新型コロナウイルスの影響で規模を縮小し、法人関係者ら約10人で実施しました。

参加者は、高い枝に実った梅を竹の棒でたたくて落とし、ひとつひとつ収穫。拾い集めた約100キロの梅は、選別し袋詰めにして、1キ200円で販売。事前に予約を受け付けた方に届けました。

## 人権教育の取り組みを学ぶ

人権教育部会新規採用者および転入職員研修

5月28日（木）町生涯学習センター・研修室と町内の各小・中学校および高等学校を繋いで、甲佐町学校人権教育部会の新規採用および転入教職員研修会が行われました。

同研修は、町教育委員会と甲佐町人権教育推進協議会が主催。新たに本町に赴任した教員が、本町の現状や問題点を理解し、同和問題解決につながる学校人権教育を推進するために毎年実施。今回、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、はじめてリモートでの開催となりました。



▲リモートで行われた人権教育部会の教職員研修



▲藤木会長から表彰状を伝達される市下さん(左)

## 市下潤子さんに表彰状を伝達

熊本県防犯協会連合会 防犯功労者表彰

6月9日（火）御船町役場町長室で、熊本県防犯協会連合会（荒木泰臣会長）の防犯功労者表彰を受けた市下潤子さん（下横田区）に藤木正幸御船地区防犯協会連合会長から表彰状が伝達されました。

同表彰は、県防犯協会連合会が防犯思想の普及高揚や地域における防犯活動に尽力し多大な功労があつたと認められる個人および団体などを表彰するもの。市下さんは、龍野地区社会福祉協議会防犯パトロール隊に平成20年の発足時から参加し、児童の登校見守りを実践されるなど地域安全活動への貢献が認められ、今回の表彰となりました。

## 新型コロナウイルスの終息を願って

全国一斉悪疫退散祈願「Cheer up! 花火」プロジェクト



▲甲佐の町明かりを背景に、新型コロナウイルスの終息を願って緑川河川敷から打ち上げられた花火

6月1日（月）新型コロナウイルスの終息を願い、全国各地で一斉に花火を打ち上げる「Cheer up! 花火」プロジェクトが行われ、緑川河川敷で打ち上げられた大輪が甲佐の夜空を彩りました。

県内では本町と熊本市北区植木町、八代市の3カ所で開催。「3密」を防ぐため開催場所の事前告知は行われず、午後8時から5分間限定で実施され、本町では例年あゆまつりの花火大会を担う（株）金田花火（熊本市西区）が2～4号玉の計75発を打ち上げました。プロジェクトへの参加を決めた同社の松田昌典社長は「皆さんに花火を見上げていただいて、少しでも前向きな気持ちになってもらえればうれしい」と話しました。

自宅から家族と花火を見上げたという岩井照美さん（西寒野区）は「報道などでプロジェクトの件は知っていましたが、まさか甲佐で上がるとは思わず驚きました。きれいな花火を見ると心が和みます。コロナが収まって花火大会が当たり前のようにならざるを得ない日々が待ち遠しいですね」と笑顔で話しました。